

保健学研究科博士前期課程（高度保健実践研究プログラム）教育の方針

教育の基本的目標

保健学研究科博士前期課程では、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に” 知の創成” に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために「全人的ケア」及び「チームケア」を通して国際的に活躍できる基礎的研究能力を備えた高度専門職業人

保健学研究科博士前期課程では、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、課題解決に導く実践力
- 研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に保健学の課題に迫る探究力
- 保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力
- 高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力
- 幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

保健学研究科博士前期課程は、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、課題解決に導く実践力

各専門の課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動できる。地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献できる。
全人的かつ先進的な保健・医療を実践できる。

【探究力】研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に保健学の課題に迫る探究力

専門的学識を用いて、多面的な検討により課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。
課題の本質を、他の専門領域の人が理解できるように説明することができる。

【コミュニケーション力】保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力

専門職として、チーム医療における役割を理解できる。
円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えて相互に高め合うことができる。

【専門力】高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力

研究方法についての知識と技術を習得している。
知識、技能を深く統合することができる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。
自分や社会の未来創造のために、方向性を見だし、計画できる。
より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、保健学研究科博士前期課程として以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

保健学研究科では博士前期課程に保健学専攻を設置し、看護学、放射線技術科学、及び検査技術科学の3分野を設け、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士前期課程の標準修業年限は2年で、各サブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、3分野必修の共通・コア科目である「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、各サブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学びます。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。学位論文については、最終審査・試験に合格することが求められます。学位論文の最終審査・試験では、委員2名以上（ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。）からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員（主査）は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、各分野が準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

1年次から2年間を通して「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

助産師、医学物理士、中性子医療に関わる医療人、超音波医学検査士、ゲノム医療サイエンティストの育成に特化したサブプログラムや特別履修コースにあたっては、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および診療所での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による

授業評価アンケートの解析など様々な観点から PDCA サイクルを実行し、SDGs につながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

2 年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士前期課程(看護学研究コース)教育の方針

教育の基本的目標

看護学研究コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に” 知の創成” に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために「全人的ケア」及び「チームケア」を通して国際的に活躍できる基礎的研究能力を備えた高度専門職業人

看護学研究コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、看護学の課題解決に導く実践力
- 研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に看護学の課題に迫る探究力
- 保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力
- 看護学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力
- 幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)

看護学研究コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】実践力全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、看護学の課題解決に導く実践力

看護学の課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動できる。地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献できる。全人的かつ先進的な保健・医療を実践できる。

【探究力】研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に看護学の課題に迫る探究力

看護学の専門的学識を用いて、多面的な検討により課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

課題の本質を、他の専門領域の人が理解できるように説明することができる。

【コミュニケーション力】保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力

看護学の専門職として、チーム医療における役割を理解できる。円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えて相互に高め合うことができる。

【専門力】看護学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力

看護学の研究方法についての知識と技術を習得している。知識、技能を深く統合することができる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。自分や社会の未来創造のために、方向性を見だし、計画できる。より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

卒業認定・学位授与の方針(ディグリー・ポリシー)で掲げた力を修得した人材を養成するため、看護学研究コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

看護学研究コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達(ファンドレイジング)、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学びます。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審

査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。学位論文については、最終審査・試験に合格することが求められます。学位論文の最終審査・試験では、委員2名以上(ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。)からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員(主査)は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

1年次から2年間を通して「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

医療人の育成に特化したコースである「看護学研究コース」にあたっては、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士前期課程(助産学コース)教育の方針

教育の基本的目標

助産学コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために「全人的ケア」及び「チームケア」を通して活躍できる基礎的実践能力と研究能力を備えた高度専門職業人

助産学コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、助産学の課題解決に導く実践力
- 研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に助産学の課題に迫る探究力
- 保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力
- 助産学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力
- 幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

助産学コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、助産学の課題解決に導く実践力

助産師の価値観、行動様式、役割意識を体得し、後進に伝える方法を考察できる。

【探究力】研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に助産学の課題に迫る探究力

研究倫理の遵守し、適切な方法を用いて学術的・実践的貢献ができる。

【コミュニケーション力】保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力

助産師および他職種の職責、組織での役割を理解し、目的達成のための協働について考察できる。

【専門力】助産学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力

対象者中心のケアに必要な基本的な助産診断能力と特有の技術を習得できる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

生命倫理、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、性の多様性、文化的・宗教的・社会的背景と女性の性について理解し、助産師として対象者の福利や受益について考察できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、助産学コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

助産学コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。

「研究方法論」では最新の研究手法を学びます。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。学位論文については、最終審査・試験に合格することが求められます。学位論文の最終審査・試験では、委員2名以上(ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。)からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員(主査)は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

1年次から2年間を通して「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

医療人の育成に特化したコースである「助産学コース」にあたっては、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および先進医療実施施設での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士前期課程（放射線技術科学・高度実践研究コース） 教育の方針

教育の基本的目標

放射線技術科学・高度実践研究コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために「全人的ケア」及び「チームケア」を通して国際的に活躍できる基礎的研究能力を備えた高度専門職業人

放射線技術科学・高度実践研究コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、放射線技術科学の課題解決に導く実践力
- 研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に放射線技術科学の課題に迫る探究力
- 保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力
- 放射線技術科学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力
- 幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

放射線技術科学・高度実践研究コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間に在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、放射線技術科学の課題解決に導く実践力

放射線技術科学の課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動できる。

地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献できる。

全人的かつ先進的な保健・医療を実践できる。

【探究力】研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に放射線技術科学の課題に迫る探究力

放射線技術科学の専門的学識を用いて、多面的な検討により課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

課題の本質を、他の専門領域の人が理解できるように説明することができる。

【コミュニケーション力】保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力

放射線技術科学の専門職として、チーム医療における役割を理解できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えて相互に高め合うことができる。

【専門力】放射線技術科学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力

放射線技術科学の研究方法についての知識と技術を習得している。

知識、技能を深く統合することができる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

自分や社会の未来創造のために、方向性を見だし、計画できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、放射線技術科学・高度実践研究コースとして以下の方針及び考え方に基つき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

放射線技術科学・高度実践研究コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学びます。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審

査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。学位論文については、最終審査・試験に合格することが求められます。学位論文の最終審査・試験では、委員2名以上(ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。)からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員(主査)は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

1年次から2年間を通して「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

医学物理士や中性子医療に関わる医療人の育成に特化した特別履修コースである「がん放射線科学コース(通称、医学物理士コース)」、「中性子医療コース」にあたっては、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および先進医療実施施設での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士前期課程（臨床検査科学・高度実践研究コース） 教育の方針

教育の基本的目標

臨床検査科学・高度実践研究コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために「全人的ケア」及び「チームケア」を通して国際的に活躍できる基礎的研究能力を備えた高度専門職業人

臨床検査科学・高度実践研究コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、臨床検査科学の課題解決に導く実践力
- 研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に臨床検査科学の課題に迫る探究力
- 保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力
- 臨床検査科学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力
- 幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

臨床検査科学・高度実践研究コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、臨床検査科学の課題解決に導く実践力

臨床検査科学の課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動できる。

地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献できる。

全人的かつ先進的な保健・医療を実践できる。

【探究力】研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に臨床検査科学の課題に迫る探究力

臨床検査科学の専門的学識を用いて、多面的な検討により課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

課題の本質を、他の専門領域の人が理解できるように説明することができる。

【コミュニケーション力】保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力

臨床検査科学の専門職として、チーム医療における役割を理解できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えて相互に高め合うことができる。

【専門力】臨床検査科学の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力

臨床検査科学の研究方法についての知識と技術を習得している。

知識、技能を深く統合することができる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

自分や社会の未来創造のために、方向性を見だし、計画できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、臨床検査科学・高度実践研究コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

臨床検査科学・高度実践研究コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティーの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学びます。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審

査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。学位論文については、最終審査・試験に合格することが求められます。学位論文の最終審査・試験では、委員2名以上（ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。）からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員（主査）は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

1年次から2年間を通して「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

臨床検査科学・高度実践研究コースでは、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および先進医療実施施設での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士前期課程(超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース))教育の方針

教育の基本的目標

超音波検査士育成コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

医用超音波診断技術を習得するために、医科学を多角的な視点から問題解決に導くことができる高度専門職業人

超音波検査士育成コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、医用超音波診断の課題解決に導く実践力
- 研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に医用超音波診断の課題に迫る探究力
- 保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力
- 医用超音波技術の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力
- 幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

超音波検査士育成コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、医用超音波診断の課題解決に導く実践力

臨床における医用超音波診断の課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動できる。

地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献できる。

全人的かつ先進的な保健・医療を実践できる。

【探究力】研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的に医用超音波診断の課題に迫る探究力

医用超音波診断の専門的学識を用いて、多面的な検討により課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

課題の本質を、他の専門領域の人が理解できるように説明することができる。

【コミュニケーション力】保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力

医用超音波診断の専門職として、チーム医療における役割を理解できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えて相互に高め合うことができる。

【専門力】医用超音波診断の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力

医用超音波診断技術を用いた臨床・基礎の研究方法についての知識と技術を習得している。

知識、技能を深く統合することができる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

自分や社会の未来創造のために、方向性を見だし、計画できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、超音波検査士育成コースとして以下の方針及び考え方にに基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

超音波検査士育成コースでは、ディプロマ・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学びます。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づ

いて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。学位論文については、最終審査・試験に合格することが求められます。学位論文の最終審査・試験では、委員2名以上(ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。)からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員(主査)は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

1年次から2年間を通して「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

医療人の育成に特化したコースである「超音波検査士育成コース」にあたっては、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および先進医療実施施設での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づいて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる正課外の機会を提供します。

保健学研究科博士前期課程（ゲノム医療サイエンティスト育成コース）教育の方針

教育の基本的目標

ゲノム医療サイエンティスト育成コースでは、社会から要請される最重要の使命である教育活動を充実させます。これまでの高度な研究活動の成果を基礎として、学生が主体的に”知の創成”に参画し得る能力を涵養するとともに、学生同士や教職員との密接な対話や議論を通じて、個々人が豊かな人間性を醸成できるように支援し、国内外の医療を主体とする幅広い分野において中核的に活躍し得る高い総合的能力と人格を備えた人材の育成を目的とした教育を行います。

養成する人材像

ヘルスプロモーションの実践と確立のために「全人的ケア」及び「チームケア」を通して国際的に活躍できる基礎的研究能力を備えた高度専門職業人

ゲノム医療サイエンティスト育成コースでは、目標理念として「ヘルスプロモーションの実践と確立」を掲げています。この目標理念を達成するため、教育理念として「全人的ケア」及び「チームケア」を据え、高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力を養成し、社会の要請に応えます。

具体的には、以下の5つの力を持つ人材を養成します。

- 全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、ゲノム医療の課題解決に導く実践力
- 研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的にゲノム医療の課題に迫る探究力
- 保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力
- ゲノム医療の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力
- 幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）

ゲノム医療サイエンティスト育成コースは、先に掲げた人材を養成するため、所定の期間在学し、以下に掲げる力を身につけ、所定の単位を修得した学生に学位を授与します。

修得できる力：実践力・探究力・コミュニケーション力・専門力・教養力

【実践力】全人的かつ先進的な保健・医療のために、世界と繋がり、異なる価値を認め、ゲノム医療の課題解決に導く実践力

ゲノム医療の課題と向き合う中で、それぞれの差異を理解し、解決のために先駆けて行動できる。

地域社会や国際社会におけるヘルスプロモーションに貢献できる。

全人的かつ先進的な保健・医療を実践できる。

【探究力】研究の基礎能力を持ち、論理的・複眼的にゲノム医療の課題に迫る探究力

ゲノム医療の専門的学識を用いて、多面的な検討により課題を発見し、自ら解決方法を見いだせる。

課題の本質を、他の専門領域の人が理解できるように説明することができる。

【コミュニケーション力】保健・医療チームの中核として広く協働できるコミュニケーション力

ゲノム医療の専門職として、チーム医療における役割を理解できる。

円滑なコミュニケーションにより、専門領域を超えて相互に高め合うことができる。

【専門力】ゲノム医療の高度な知識と技術を統合し、保健・医療・福祉の向上に貢献できる専門力

形態病理学や分子病理学に関する研究方法についての知識と技術を習得している。

知識、技能を深く統合することができる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深め、社会・環境の変化に柔軟に対応できる教養力

情報の収集・分析などを行うことができ、適切に活用できる。

自分や社会の未来創造のために、方向性を見だし、計画できる。

より広く深く学ぶことを通して自らの成長に繋げることができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

卒業認定・学位授与の方針（ディグリー・ポリシー）で掲げた力を修得した人材を養成するため、ゲノム医療サイエンティスト育成コースとして以下の方針及び考え方に基づき、教育課程を編成し、実践します。

教育の実施方針

持続可能社会の実践に向けて学生が主体的に学び続ける能力を育成する教育を実施します。

教育内容および方法、評価の考え方

主体的・対話的で深い学びの視点から、「何を教えたか」から学生が「何ができるようになったか」を重視して、以下の教育内容および方法を共通教育、専門教育、言語教育においてそれぞれ提供します。

【共通教育】

全ての学生に共通して求められる汎用的技能の育成を目指し、他の学生と学び合う、共に育ち共に創る実践的な活動を提供します。

ゲノム医療サイエンティスト育成コースでは、ディグリー・ポリシーを実現するための教育プログラムを実施します。博士前期課程の標準修業年限は2年で、このサブプログラムで定めた修了要件単位以上の取得を必要とし、かつ必要な研究指導を受けたうえ、学位論文の審査及び最終試験を行います。

初年次に、「学位プログラム概論」において、学位プログラムにおける学修者主体の学びについて、このサブプログラムで養成する人物像、学修目標、学修成果を概説し、研究の基盤として必要な研究倫理、知的財産・権利、情報セキュリティの学習方法を指導し、学生主体で学びます。「リーダーシップとSDGs」では、生涯にわたる継続的な社会、地域への貢献のあり方として、SDGs、国連機関、JICA、地域社会課題、事業構想、資金調達（ファンドレイジング）、政策立案、イノベーション、アントレプレナーシップ等について学びます。選択必修の共通・コア科目である「ヘルスプロモーション科学」、「医療倫理学」において各種課題の検討とディベート、レポートによる評価を行い、「危機管理学」では過去の事例と対処法を学ぶことにより、社会・環境の変化に柔軟に対応でき、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供でき、保健学、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる高度専門職業人を育成します。「研究方法論」では最新の研究手法を学びます。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づ

いて学修成果を厳格に評価します。大学院課程の学位論文や特定の課題については、審査基準・方法を明示するとともに、それらに基づいた研究成果の最終審査・試験を行います。学位論文については、最終審査・試験に合格することが求められます。学位論文の最終審査・試験では、委員2名以上（ただし、同プログラム内で予算措置が可能な場合には学外研究者を委員に迎えることも可能。）からなる審査委員会を組織し、審査します。審査委員会委員（主査）は委員の互選により選出します。

【専門教育】

専門領域の内容を体系的に提供することによる深い理解と、異なる専門領域の知識を統合したり、創造したりすることができる機会を提供します。

初年次には、このサブプログラムが準備する学際的な授業・演習等の履修とレポートや発表会による評価により、高度の専門知識と技術を身につけ、保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材を養成します。

1年次から2年間を通して「特別研究」の実施により、研究の基礎能力と探究心を育て、生涯にわたって自己研鑽できる素養を育みます。教員との密接なかかわりの中で課題に取り組み、2年間をとおして論文としてまとめる過程を支援して、研究領域の先端知識・技術の習得とともに、問題解決力や論理的思考の向上を図ります。中間段階では、他の大学院生や教員とともに発表会などで評価を行い、自分の研究の問題点や位置づけがわかるようにします。

専門分野を跨ぐ豊かな教養と高度な専門性を有する学生を育てるために、主指導教員1名に加えて、必要に合わせて副指導教員を配して、学生のニーズにきめ細やかに応えられる指導体制を整え、研究のプロセス管理を行います。

在学前～中に社会人として実務経験がない学生の場合は「インターンシップ実践(前期)」の受講を必修とし、地域での実践体験により学びの成果を実践する機会を提供します。

医療人の育成に特化したコースである「ゲノム医療サイエンティスト育成コース」にあたっては、1年次から岡山大学病院、地域中核病院、および先進医療実施施設での実習、演習を取り入れて実践に結び付いた教育を行い、2年間で、高度の専門知識と技術に加えて、研究の基礎能力、専門分野以外に備えておくべき知識や技能を身につけます。各分野のエキスパートが臨床的視点から、知識と技能を単位化して評価します。

以上のような教育カリキュラムの実施によって、豊かな専門的知識と技術を基礎として、保健・医療チームの中核として全人的かつ先進的な保健・医療を提供し、生涯にわたって変化や課題に柔軟に対応でき、ヘルスプロモーションの実践に貢献できる人材を養成します。

構築した教育カリキュラムは、教員FD、組織的な内部評価、外部評価、学生による授業評価アンケートの解析など様々な観点からPDCAサイクルを実行し、SDGsにつながる定期的で継続した改善を行っています。

学修評価については、授業科目の成績評価の基準・方法を予め明示し、それらに基づ

いて学修成果を厳格に評価します。

【言語教育】

グローバル社会を生きるうえで必要とされる英語力を伸ばす教育を提供します。

2年間の国内外での研究成果の発表や海外でのインターンシップや研究活動を単位化して評価します。プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力、ディベート能力の涵養を図り、英語による知識の習得や情報発信をサポートします。

正課外教育の考え方

学生が授業での学びを越えて自らの成長を実感できる様々な正課外の機会を提供します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

保健学研究科博士前期課程は、以下に掲げた力を身につけた人材を求めます。

高度専門職業人を育成し、専門性の確立に貢献できる基礎的研究能力をもつ人材を養成するうえで求める人物像

保健・医療および関連分野の基礎知識・技能に加えて豊かな人間性、優れた感性を持ち<専門力・教養力>、課題解決に挑む情熱と気概・知的探究心<実践力・探究力・教養力>、協調性と柔軟な発想<コミュニケーション力・教養力>で、人々の幸福・健康の推進活動への参画や研究の基礎能力向上を目指している人材、技能を高めて将来チームの中核として活動しようとする人材を国内外から広く求めます。

求める力

【実践力】保健・医療、人々の健康推進のために、課題解決に挑む実践力

保健・医療および関連分野における課題と向き合い、解決に向けて行動できる。

【探究力】保健学の課題を見出す探究力

保健・医療および関連分野における事象や対象に疑問を持ち、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

疑問や課題を他者が理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】多様な価値観や異文化をもつ人との交流・協働ができるコミュニケーション力

専門領域を超えて相互に高め合うために、円滑なコミュニケーションができる。

【専門力】専門領域の土台となる知識、技能を活用できる専門力

専門領域に、保健・医療および関連分野の基礎知識と技能を生かすことができる。

【教養力】幅広い学びから自らの知を深める力

社会や人間、身の周りで生じている事象に好奇心を持ち、学び続けることができる。
豊かな人間性、優れた感性、柔軟な発想で、さまざまな経験を自らの成長に繋げることができる。

以下、各コースの求める力を下述。

〔看護学研究コース〕

【実践力】

看護・保健学とその関連分野における課題と向き合い、解決に向けて行動できる。

【探究力】

看護・保健学とその関連分野における事象や対象に疑問を持ち、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

疑問や課題を他者が理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

専門領域を超えて相互に高め合うために、円滑なコミュニケーションができる。

英語力でグローバル化に対応できる。

【専門力】

看護学・保健学の基礎知識と技能を専門領域に生かすことができる。

【教養力】

社会や人間、身の周りの事象に好奇心を持ち、学び続けることができる。

豊かな人間性、優れた感性、柔軟な発想で、様々な経験を自らの成長に繋げることができる。

〔助産学コース〕

【実践力】

女性の健康課題と向き合い、解決に向けて行動できる。

【探究力】

周産期ケアとその関連分野における事象や対象に疑問を持ち、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

疑問や課題を他者が理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

専門領域を超えて相互に高め合うために、円滑なコミュニケーションができる。

【専門力】

看護学、特に母性看護学の基礎知識と技能を専門領域に生かすことができる。

母性看護学における基礎的な技術を習得している。

修学に必要な英語力をもっている。

【教養力】

社会や人間、身の周りの事象に好奇心を持ち、学び続けることができる。

豊かな人間性、優れた感性、柔軟な発想で、これまでの経験を自らの成長に繋げることができる。

【放射線技術科学・高度実践研究コース】

【実践力】

放射線技術科学とその関連分野における課題と向き合い、解決に向けて行動できる。

【探究力】

放射線技術科学とその関連分野における事象や対象に疑問を持ち、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

疑問や課題を他者が理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

専門領域を超えて相互に高め合うために、円滑なコミュニケーションができる。

英語力でグローバル化に対応できる。

【専門力】

放射線技術科学の基礎知識と技能を専門領域に生かすことができる。

【教養力】

社会や人間、身の周りの事象に好奇心を持ち、学び続けることができる。

豊かな人間性、優れた感性、柔軟な発想で、様々な経験を自らの成長に繋げることができる。

【臨床検査科学・高度実践研究コース】

【実践力】

臨床検査科学とその関連分野における課題と向き合い、解決に向けて行動できる。

【探究力】

臨床検査科学とその関連分野における事象や対象に疑問を持ち、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

疑問や課題を他者が理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

専門領域を超えて相互に高め合うために、円滑なコミュニケーションができる。

英語力でグローバル化に対応できる。

【専門力】

臨床検査科学の基礎的知識と技能を専門領域に生かすことができる。

【教養力】

社会や人間、身の周りの事象に好奇心を持ち、学び続けることができる。

豊かな人間性、優れた感性、柔軟な発想で、様々な経験を自らの成長に繋げることができる。

【超音波検査士育成コース(博士前期・後期課程一貫コース)】

【実践力】

医用超音波診断における課題と向き合い、解決に向けて行動できる。

【探究力】

医用超音波診断における事象や対象に疑問を持ち、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

疑問や課題を他者が理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

専門領域を超えて相互に高め合うために、円滑なコミュニケーションができる。

【専門力】

臨床検査科学の基礎的知識と技能を専門領域に生かすことができる。

超音波エコー検査の臨床研修に参加するための基本的手技を習得している。

修学に必要な英語力をもっている。

【教養力】

社会や人間、身の周りの事象に好奇心を持ち、学び続けることができる。

豊かな人間性、優れた感性、柔軟な発想で、これまでの経験を自らの成長に繋げることができる。

【ゲノム医療サイエンティスト育成コース】

【実践力】

ゲノム医療における課題と向き合い、解決に向けて行動できる。

【探究力】

ゲノム医療における事象や対象に疑問を持ち、多面的な検討を加えて課題を明らかにすることができる。

疑問や課題を他者が理解できるように論理的に説明することができる。

【コミュニケーション力】

専門領域を超えて相互に高め合うために、円滑なコミュニケーションができる。

【専門力】

臨床検査科学の基礎的知識と技能を専門領域に生かすことができる。

遺伝子の基礎知識、腫瘍病理学および遺伝子解析に必要な基本的実験手技を習得している。

修学に必要な英語力をもっている。

【教養力】

社会や人間、身の周りの事象に好奇心を持ち、学び続けることができる。

豊かな人間性、優れた感性、柔軟な発想で、これまでの経験を自らの成長に繋げることができる。

保健学研究科博士前期課程の選抜方針

幅広く多様な人材を確保するため、一般入試、社会人入試、外国人留学生特別入試といった複数の入試を実施します。

保健学研究科博士前期課程の選抜方法

筆記試験、口述試験、書類審査、実技などによる試験のいずれかを、あるいは組み合わせて行い、本大学院での学修に足る語学力や適性など様々な要素を測ります。

選抜方針・各選抜方法の具体的な考え方

（１）一般入試 広く大学院進学希望者を対象とした入試で、書類審査と学力試験等（筆記試験および口述試験：助産学コースは実技検査を含む）を課しています。書類審査では受験時までに習得した専門性などについて、複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、保健・医療分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、専門科目に関する知識、理解力やキャリアプランなどについて複数の教員が総合的に評価します。助産学コースの実技検査では、実技課題を課して、その適性を複数の教員が評価します。

（２）社会人入試 出願時に職を有し、入学後もその身分を継続する者を対象とした入試で、書類審査と学力試験等（筆記試験および口述試験）を課しています。書類審査では、受験時までに習得した専門性、キャリアプランなどについて、複数の教員が多面的に確認します。筆記試験では、保健・医療分野の英語課題を用い、語学力のみならず、論理構造の理解力、日本語の表現力等を総合的に評価します。口述試験では、専門科目に関する知識、理解力や社会人としてのキャリアプランなどについて複数の教員が総合的に評価します。

（３）外国人留学生特別入試 日本の国籍を有しない者を対象とした入試で、書類審査と口述試験を課しています。書類審査と口述試験では、受験時までに習得した語学力や専門性、キャリアプラン、就学の前提となる異文化適応状況などについて、複数の教員が多面的に評価します。

入学前に学習しておくことが期待される内容

英語力の向上を目指されることを期待します。

関連分野で求められる専門領域の知識・技能の向上を目指してください。研究を円滑に推進していくには、合格後にさらに専門知識を深めておく必要があります。